

= つっちー & ゆっきー 通信 =

麻疹（ましん）、はしか について ②

～ 副院長 阿部由紀子 ～

今回は、前回に続いて、麻疹の合併症と予防法についてです。

■ 麻疹の合併症は…

① 肺炎

麻疹の合併症で最も多いのは肺炎です。

② 中耳炎

細菌の二次感染により生じ、麻疹患者の約 5～15%にみられ肺炎と並んで頻度の多い合併症です。

③ クループ症候群

クループ症候群の原因である喉頭炎および喉頭気管支炎は乳幼児の麻疹の合併症として多くみられるもののひとつです。

④ 脳炎

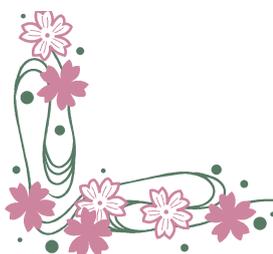
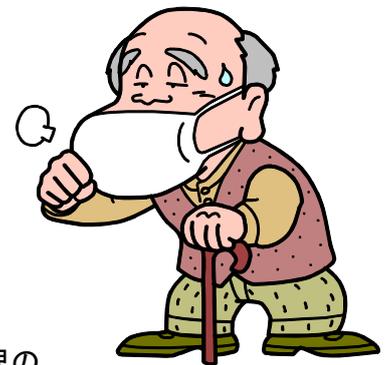
麻疹を発症した 1,000 例に 0.5～1 例の割合で脳炎を合併します。発生頻度は高くはありませんが肺炎とともに麻疹発症者の主要な 2 大死因の 1 つとされています。発疹出現後 2～6 日頃に発症することが多く、麻疹そのものの症状の重症度と脳炎発症には相関は認められません。脳炎発症患者の約 60%は完全に回復しますが、20～40%に中枢神経系の後遺症(精神発達遅滞、痙攣行動異常、神経聾、片麻痺、対麻痺)を残し、致死率は約 15%です。

⑤ 亜急性硬化性全脳炎 (SSPE)

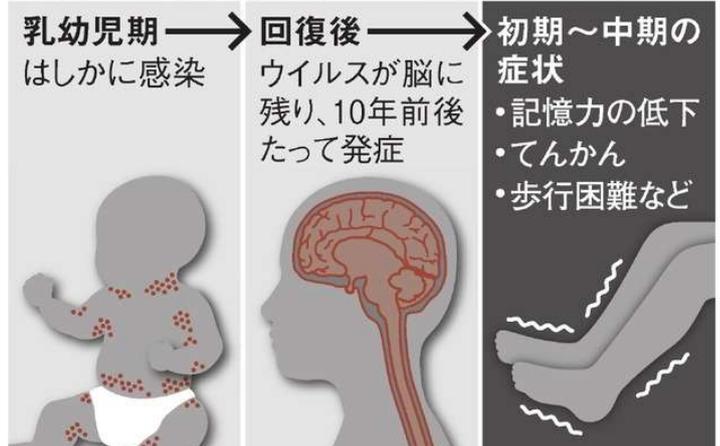
麻疹に罹患して治癒した後 7～10 年後に発症する中枢神経疾患で、麻疹ウイルスの中枢神経系への持続感染によって発症するといわれています。

発症の頻度は麻疹の罹患者 10 万例に 1 人と極めて低いですが、知能障害、運動障害が徐々に進行し、発症から平均 6～9 か月で死の転帰をとる進行性の予後不良疾患です。

この疾患の本態は未だに不明であり、有効な治療方法はありませぬ。



亜急性硬化性全脳炎 (SSPE) 発症までの経過



(…裏面につづく…)

ひかいクリニックだより

(・・・表面からのつづき・・・)

■ 麻疹はワクチン接種が予防に有効です。

予防手段は、ワクチンを接種して麻疹に対する免疫を獲得しておくことです。

麻疹は感染力が強く、空気感染もするので、手洗い、マスクのみで予防はできません。予防接種が最も有効な予防法です。



■ 定期接種を受けましょう。

ワクチンを1回接種することで95%以上の方が麻疹に対する免疫がつくと言われています。

確実な免疫を得るためには、99%以上の方が免疫がつくと言われる2回の接種が望ましいとされています。接種歴は母子健康手帳で確認できます。



上図のMRワクチンは生ワクチンという種類のワクチンで妊娠時は接種をうけることができません。1歳児と小学校入学前1年間の幼児が定期接種の対象です。期間内に接種しましょう。

また定期接種の対象者だけでなく、医療従事者、教育関係者や流行国に海外渡航を計画している成人も、麻疹の罹患歴や予防接種歴が明らかでない場合は予防接種を検討しましょう。

定期接種の時期にない方で麻疹にかかったことがなく、ワクチンを1回も受けたことがない方はかかりつけ医にご相談ください。

1回目のワクチン接種後の反応で見られるのは発熱や発疹があり、2回目のワクチン接種では接種局所の反応が見られる場合がありますが、発熱発疹の頻度は極めて低いようです。

ワクチンの接種で麻疹に対する免疫を高めましょう。

